

日時：令和2年1月28日（火）

午後7時より

場所：寄小学校屋内運動場

多目的ホール

1 開会

2 前回の振り返り

～事務局から資料2に基づき説明～

3 現地見学会実施結果等について

～事務局から資料3に基づき現地見学会実施結果について説明～

～寄小学校児童からの提案内容の説明（寄小学校長）～

4 議題

（1）旧寄中学校利活用へ向けた論点整理

～資料4、5に基づき事務局から説明～

以下、委員による議論要旨。

○地域学習の拠点として子ども達だけではなく、幅広く生涯学習的な位置づけも良いのでは。

○キーワードは「体験」。お祭りの価値が地域として共有されているが、外に向かってどこまで伝わっているか。寄に来なければ体験できないようなことが味わえるとか、祭りの文化体験的なことがここに来れば体験できるなど、寄地域でしか味わえない体験は何なのかということを考えることが大切。どういう価値があるかを考えると、結果的にプロモーションに繋がっていく。

○地元団体、関係者だけでプロデュースからすべて担うのは難しく、ノウハウのある外部の団体等の力も借りて実施する形になるのでは。ただし、管理人としては地元の人を配置するなどの配慮がないと、地域と上手くいかない恐れがある。

○地元団体等と定期的に情報交換・意見交換を実施してもらいたい。

○施設の一部は、地域に開かれたスペースとして、郷土資料や祭りの道具の展示などできると良い。

○地域の中で運営主体となりうる団体はかなり限られる。

○早い段階で運営主体にこういった内容で運営してほしいということを示して、団体を募るべき。手を挙げた団体が、このように使いたいというプレゼンテーションを我々が聞くというようなプロセスがあると良い。

○委員会としては提言をまとめ、それを受けて町のほうで公募要件を定め、まずは交

渉相手を決めて、詳細を決めていくというシナリオとなるだろう。

- 提言書においては、運営のあり方として、地域の状況や行事、学校の運営状況など、地域のことを把握している者がいることという書き方が良いのではないか。
- この会議においては、こういうことに留意して、こういう使い方してもらえる団体を提言しますということを提言書に記載していくということになるのだろう。
- 次回、これまでの議論を踏まえ、事務局から素案を提示し、話し合いを行う。提言書としては、ピンポイントでこれをやることを明示するのではなく、方向性を示す程度の記載とする。
- 事業者選定にあたっては、本委員会の委員から何名か審査委員として参加いただく。また、事業者選定後、本委員会のような場を設けて、運営者と地元住民と意見交換する場を設けて詳細を定めていくべき。

5 その他

(1) 次回日程の決定 第3回検討委員会 令和2年2月27日（木） 午後7時～

6 閉会

岩本副委員長の提案により、次回検討委員会時に、具体的な活用事例の資料を用意するとともに、YHVの活動内容とYHVメンバーによる事例発表をしていただくことになった。